

平成22年8月の解説（府県天気予報）

【8月の天候状況】

上旬は、北日本では前線の影響で曇りや雨の日が多くなりました。東・西日本では太平洋高気圧に覆われ、概ね晴れて厳しい暑さの日が多くなりました。沖縄・奄美では前半は太平洋高気圧に覆われ晴れの日が多くなりましたが、後半は熱帯低気圧や湿った気流の影響で曇りや雨の日が多くなりました。中旬は、はじめ台風第4号の影響で北日本から西日本にかけて天気が崩れ、大雨となった所がありました。その後、東日本の太平洋側から西日本では太平洋高気圧に覆われ晴れて厳しい暑さが続きましたが、北日本と東日本の日本海側では、中頃にかけて前線の影響で曇りや雨の日となりました。沖縄・奄美では太平洋高気圧に覆われ晴れの日が続きました。下旬は、北日本では前線の影響で曇りや雨の日が多くなりました。東・西日本は太平洋高気圧に覆われ晴れて厳しい暑さが続きました。沖縄・奄美では、前半は太平洋高気圧に覆われ晴れの日が多くなりましたが、後半は熱帯低気圧や台風第7号の影響で曇りや雨の日が多くなりました。

月を通しての日照時間は、東・西日本では平年より多くなりましたが、沖縄・奄美では少なくなりました。降水量は北日本の太平洋側と東・西日本で平年より少なく、特に西日本の太平洋側ではかなり少なくなり、月降水量の最小値を更新した気象官署がありました。北日本の日本海側と沖縄・奄美では平年より多くなりました。気温は全国的に記録的な高温となり、全気象官署154地点のうち77地点が8月の月平均気温の最高値を更新しました。

【8月の検証結果】

17時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報で80%と例年^(注)より1ポイント高く、明後日予報では80%と6ポイント高くなりました。地域毎の適中率では、明日予報は近畿、中国地方でそれぞれ6ポイントと8ポイント高くなりましたが、九州北部・南部地方ではそれぞれ5ポイントと6ポイント低くなりました。明後日予報は北日本と関東甲信、北陸、近畿、中国地方で6から11ポイント高くなりましたが、沖縄地方では6ポイント低くなりました。明日の最高気温の予報誤差は、大半の地方が例年より0.5程度小さくなり、全国平均では0.4 小さい1.3 でした。最低気温の予報誤差は大半の地方が例年より0.2 小さくなり、全国平均では0.2 小さい1.0 でした。

^(注) 例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【10月の天気予報の利用にあたって】

秋りんも終わり10月は秋晴れの日が多くなりますが、まだ台風には油断ができません。1979年の台風第20号は沖ノ鳥島の南で台風観測史上最低の中心気圧870hPaを記録した後、10月12日に和歌山県へ上陸し大きな被害をもたらしました。昨年も台風第18号がマリアナ諸島付近で910hPaの中心気圧を観測した後、強い勢力を保ったまま愛知県に上陸しました。10月の台風上陸や接近は少なくなりますが、日本の南海上で十分に発達して日本に接近することが多いので注意が必要です。